

2016

7月号

# 大森日赤だより

## Contents

- 特集 『乳がん検診の昨今』  
乳腺外科部長 鈴木 規之
- 特集 『お子さまの入院』  
小児科部長 大沼 健一
- 『子どもを事故から守ろう！』  
小児看護専門看護師 岩尾 弓子



3F 病棟 小児科スタッフ

# 乳がん検診の昨今

## ▼はじめに

昨年9月に元プロセッサーでタレントの北斗晶さんが乳がんを告白して以降、日本中の乳腺外来は大混雑となりました。マスコミの報道によれば、北斗さんは毎年乳がん検診をきちんと受けていたようですが、たまたま痛みをきっかけに外来を受診した際に乳がんが発見され、しかもそれは乳房全摘と抗がん剤治療が必要な進行した段階であったという、ショッキングな内容でした。

日本人女性の乳がん罹患数（新たに乳がんと診断される数）が増加の一途をたどる中、どういう形であれ乳がんを自分自身のことと意識していただいたことは決して悪いことではありませんが、それを一時的な検診受診に止めず定期的な乳がん検診受診へと習慣づけていただくようお願いいたします。乳がんには備える万全な方法はないのは事実ですが、症状がないうちに検診

乳がん検診を補うために、自分の乳房に関心を持って、入浴時などに定期的な自己検診を行うことも有用です。そこで少しでも異常に気付いたら乳腺専門医を受診することをお勧めします。



乳腺外科部長 鈴木 規之

【専門分野】 乳腺外科  
 【学会認定医・専門医】  
 日本外科学会専門医・指導医  
 日本乳癌学会認定医・専門医  
 マンモグラフィー読影認定医（AS判定）  
 日本超音波学会専門医・指導医  
 日本内分泌学会評議員  
 甲状腺外科学会評議員  
 日本乳腺甲状腺超音波診断学会幹事  
 日本がん治療認定医機構暫定教育医

## ピンクリボン運動

皆さんもご存じの、乳がんの正しい知識を広め、乳がん検診の早期受診推進を目的とするこの世界規模の啓発キャンペーンの起源をご存じでしょうか？これには諸説あるのですが、伝説的ないし逸話的な話として伝わっているのは、1980年代のアメリカの地方都市で乳癌で亡くなられた女性の母親が、この悲劇を繰り返さないようにとの願いをこめて、この女性の娘である実孫にピンク色のリボンを手渡したのが始まりという説です。

そのほか、乳がんで亡くなった姉を偲んでその妹が設立した「スーザン・G・コーメン基金」のイベント（1991年）がきっかけという説や、化粧品会社の「エステーローダー」の副社長と女性向け健康雑誌の編集長が計画した乳がん意識向上キャンペーン（1992年）が始まりという説もあります。個人的には、昨今、このキャンペーンが過剰に大企業のコマーシャルに利用されているように感じているので、最初の「伝説」を信じたいような気がします。



## ▼乳がん検診の方法（マンモグラフィ・超音波検査併用検診）

以前、行われていた視触診のみによる乳がん検診は効果が低いことが明らかになり、2004年に厚生労働省から「40歳以上の女性を対象とした2年に1度のマンモグラフィを原則とした乳がん検診」を推進するように指針が出されました。マンモグラフィ検査によって、触診ではわからないような小さなしこりや、石灰化という、しこりを作る前の微細な影を発見することが可能になり、乳がん検診は大きな進歩を見せました。しかし、日本で増えている40歳代の乳がんでは、マンモグラフィ検査でしこりが厚く密な正常乳腺に隠れてしまうことがあり、より効果のある検診方法の導入が必要とされています。

そこで注目されたのが、乳腺が密な若い女性にも有効な超音波検査をマンモグラフィと併用して行う乳がん検診で、厚生労働省も2007年9月に「乳がん検診における超音波検査の有効性を検証するための比較試験・J-START（ジェイ・スタート）」を立ち上げ、昨年（2015年）の11月には、その中間報告的な論文が世界的に権威のある医学雑誌 The Lancet に発表されました。その論文の内容を分かりやすく説明しますと、検診の乳がん発見率は、マンモグラフィに超音波検査を加えることによって0.3%から0.5%に大きく向上したものの、要精密検査の割合も増えてしまい、本来は不要であった生検など侵襲的な検査の頻度が上昇したというものです。がんがたくさん見つかる検診が良い検診だと単純に考えがちですが、超音波検査の追加によって発見された乳がんは、もともと予後の良好な早期ながんが多かったことも指摘されており、マンモグラフィと超音波検査を併用した検診が、乳がん検診の最終的な目標である「乳癌による死亡率の減少効果」をもたらすものかどうか明らかになるにはもう少し調査期間が必要なようです。



※1cm以下の早期乳癌の例

## ▼大森赤十字病院の乳がんへの取り組み

2010年5月末に新病院が開院されたのを機に、マンモグラフィはデジタルマンモグラフィを用いたモニター診断装置に、超音波検査装置は最新型の高精度の機器に更新されています。結果判定は「マンモグラフィ読影認定医（AS判定）」、「日本超音波学会超音波専門医・指導医」の専門的な資格を有する「日本乳癌学会乳腺専門医・指導医」の医師が担当しており、ご希望いただければマンモグラフィと超音波検査を併用した乳がん検診をお受けいただくことができます。

もちろん、乳房専用コイルを用いたMRIやセンチネル・ナビゲーターなどの機器の充実に加え、癌化学療法専用の通院治療室も設置し、乳がん検診後の精密検査、治療に関しても十分な体制を整え、「日本乳癌学会」の施設認定も取得しています。「地元大森でも専門的な乳がん診療が受けられる」ことを目標に、診療を行っています。

## 乳腺外科 外来日程表

平成28年7月1日現在

	月	火	水	木	金
午前	鈴木(乳腺)				鈴木(乳腺)
午後	鈴木(乳腺)		中山		鈴木(乳腺)



# お子さまの入院

お子様が入院となると、驚きや不安を感じるご家族が多いと思います。今回は入院に際して、ご家族はどのようにしたほうがよいか説明させていただきながら、大森赤十字病院小児科のご紹介をさせていただきます。

## 1、まずは「病院」へ

まず、お子様が発熱などの症状があるとご近所にあるかかりつけの小児科を受診されると思います。そこで、病状が良くないと入院して治療を受けた方がよいと言われ紹介状を渡されます。『入院』と言われると、まずはお子様の状態が心配になります。そして、様々な不安が浮かんできます。どのぐらいの入院するのか、何を準備したらよいのか、家族は何をすべきなのか、費用はどの程度かかるのか、などなどです。

そのため、かかりつけ医で紹介状をいただいてから当院に来るまでに、まず自宅に寄り、たくさんの荷物を持ち来院されるご家族も少なくありません。ですが、実際そのような状況となったときは、まずはそのまま当院に向かい受診してください。お子様の病状によっては急を要する場合があります。当院では、診察や検査をさせていただき、検査だけでよいか、点滴だけでよいか、入院が必要かなどを判断します。

そして、入院して治療することが決まったら、お子様を病室にご案内させていただき安静を確保してから、当院のスタッフがご家族に準備してほしいものや、ご家族の過ごされ方などを説明させていただきます。

小児科での入院は、まずは病気のお子様の病院間の移動を素早く行うことが大切です。入院したのち、ご家族があらためて入院準備していただいたほうが、より安全で円滑に入院治療が開始できます。

## 2、付き添い

3世代～4世代で同居しているご家族から、核家族あるいは、単身で子育てをされている方など、様々なご家庭があります。しかし、実際に入院が始まると、お子様への付き添いは家族への大きな負担となります。

もちろん、お子様の安全や安寧を考慮すれば、ご家族と一緒に過ごす時間が長いことが好ましいことです。当院では、付き添いのご家族の病院への出入りの時間は面会時間とは別に設定しており、出来るだけ長くお子様と触れ合えるようにしております。また、小児科病棟にはお子様が遊ぶためのプレイルーム、ご家族がお食事するためのテイルームを用意しております。

## 4、入院中のイベント

入院中、ご家族やお子様が楽しみにしている四季折々のイベントが重なってしまうことがあります。入院はご家族やお子さまにとって悲しい出来事ですが少しでも心地よく過ごしていただくために、豆まきやひな祭り、こどもの日、七夕、ハロウィーン、クリスマスなどのイベントを行い、病状が許す限り多くのお子さまに参加いただいています。



【学会認定医・専門医】  
**小児科部長**  
**大沼 健一**  
 小児科学会専門医  
 臨床研修指導医

## 5、2次医療機関としての小児科

当院の小児科は、2次医療機関として大田区・品川区を中心に城南地域の小児医療を担っています。2次医療機関とはわかりにくい表現ですが、簡単に表現すると入院しての加療を中心とした医療です。1次医療はかかりつけ医での日々の診療・医療、3次医療は生命の危機が差し迫っている医療と言えます。2次医療機関として、入院が必要なすべてのお子様とご家族が、より早期に病状が回復し、より安寧に入院期間を過ごせることを目指し日々努力を続けています。

## 6、かかりつけ と当院小児科と大学病院 の小児科

全ての子どもたちが日常の診療から高度な治療や専門的な治療まで、必要な小児医療を効率的に受けられるように、皆様にはかかりつけの小児科を持っていただきたいと思います。かかりつけの小児科に日頃から受診し、きめ細やかな診療を受け、入院や検査が必要になったときには、ご紹介された病院に受診していただくことが大切だと考えます。当院では入院や外来通院で病状が回復あるいは回復傾向となった段階で、かかりつけの小児科にこれまでの経過をご報告し、今後の診療を行っていただくことを基本方針としています。

なお、お子さまが生命の危機が迫っているような状態となってしまった場合は、当院から速やかに大学病院などの高次医療機関、3次医療機関に転院搬送させていただきます。

お子様の病気は急にやってくる不幸な出来事ですが、もしそうなったとしてもお子様の安寧を保ち速やかに回復していただく医療の提供をしています。そしてすべての子ども達が健やかに成長することを願い、それを支える存在であり続けたいと思っております。

小児科 外来日程表 平成28年7月1日現在

		月	火	水	木	金
午前		大沼・加藤	米沢・担当医	大沼・担当医	鈴木・加藤	米沢・担当医
午後	専門外来	大沼・米澤	加藤	大沼	鈴木	
	予防接種(予約制)		担当医			
	乳児健診(予約制)			担当医	担当医	
	1ヶ月乳児健診(予約制)					担当医



## 子どもを事故から守ろう！

小児看護専門看護師 岩尾 弓子

赤ちゃんから思春期の子どもまで、50年以上にわたり子どもの死因の上位にあるのは「不慮の事故」です。死亡に至らないケースはもっとたくさん存在します。国民生活センターのデータによると、1～4歳の子どもでは死亡1に対して入院はその65倍、外来での受診は5、850倍という深刻な数値が示されています。さらに家庭で対処している事故はそれ以上あると考えられます。「不慮の事故」は子どもの成長や発達を理解して適切な対応をすることで予防できる場合が多いので、その特徴を理解することが必要です。



### 子どもの事故の特徴！

事故は「子ども側の要因」と「危険な環境」が重なり合った場合に発生します。

### 子どもはつねに発達しているからこそ事故にあう！

子どもを事故から守るには、まず子どもの発達段階を理解する必要があります。子どもはつねに成長発達しているため、昨日できなかったことが今日できたりします。視界に入るものに興味を持ち始め、好奇心のままに触ったり口にいれたりします。生後約5～6カ月になると、小さな物を自分でつかめるようになるので、口に入れて飲み込んだり(誤飲)、気道に詰まらせたり、窒息のおそれがあります。今回は、誤飲、窒息と夏に多い水の事故(溺水)と予防を紹介します。



# 子どもを事故から守ろう！

小児看護専門看護師 岩尾 弓子

## ◇誤飲（異物を飲み込むこと）

＜誤飲されることが多いもの＞

- たばこ
- コインや電池、医薬品、化粧品
- 石鹸、防虫剤
- おもちゃ（特に小さなおもちゃ、おもちゃの部品）
- 直径 3.2 cm（500円硬貨の直径は 2.7 cm）長さ 5.7 cm以内の物



予防が一番大切です！

- 床に物が落ちていませんか？
- ハイハイする子どもの目線になって！
- 手を伸ばして届きますか？

## ◇窒息（気道がふさがったり、呼吸ができないこと）

＜窒息につながるものが多くものや事柄＞



- 直径 3.2 cm（500円硬貨の直径は 2.7 cm）長さ 5.7 cm以内の物
- 呼吸ができなくなる：袋をかぶって遊ぶ、ぬいぐるみや柔らかい枕・布団など
- 首が絞まる：マフラーの巻き込み、ヘルメットの紐、よだれかけの紐、フード付きの服、シートベルト
- 気道に詰まらせる：おもちゃ、硬貨、スーパーボールなど、ピーナッツなど豆類、あめ、こんにゃく入りゼリー、パン、おにぎり

予防が一番大切です！

- おもちゃなどを口にいられて遊んでいませんか？

## ◇溺水（溺れて窒息すること）

＜溺れやすいところ＞



海・プール・川・池・用水路はもちろん、乳幼児の場合は、家庭の中での事故が多く発生しています。  
\*家庭の中で溺れやすいのは…お風呂、水槽、ビニールプール、洗面台、洗濯機、バケツ、トイレなど

予防が一番大切です！

- わずかな時間、目を離さないで！



### ※赤十字幼児安全法

幼児を中心に起こりやすい事故の予防と、正しい手当ての方法や家庭内での看病の仕方を学ぶ講習会です。講習内容など詳しくは日本赤十字社東京都支部のホームページをご欄下さい。

#### 京浜東北線 「大森駅」(約8分)

西口より東急バス①～④番「大田文化の森」下車

#### 東急池上線 「池上駅」(約10分)

東急バス「大森駅」行き「入新井第四小学校」下車

#### 東急大井町線 「荏原町駅」(約10分)

東急バス「蒲田駅」 「大森駅」行き「大森日赤前」下車

#### 車

首都高速 湾岸線 「大井南」出口下車 (約18分)  
首都高速 1号羽田線 「平和島」出口下車 (約15分)  
首都高速 2号目黒線 「戸越」出口下車 (約16分)

#### 駐車場のご案内

立体駐車場 (107台) 車椅子用駐車場 (2台)  
【料金】最初の30分無料 以降30分100円  
入庫後24時間 最大1,000円  
※患者・面会者に限る



大森赤十字病院

〒143-8527 東京都大田区中央 4-30-1 Tel 03-3775-3111 fax 03-3776-0004

日本赤十字社

No.51 2016年7月1日発行